

15:40、国指定天然記念物である浄源坊ウバメガシのある 57 番・浄源坊を参拝。16:10、65 番・光明庵参拝。この庵には、インドのネール元首相を始め、日本全国 10 万人の頭髪を使った総刺繍で造られた観音様をお祀りしているという一髪観音がある。16:20、53 番・本覚寺着。引き返して、参拝制限時間があり、扉を閉めようとしていた小豆島霊場総本院を参拝。17:41、途中で予約した昨日と同じ旭屋旅館に着。入浴し、夕食、自販機 500ml 缶ビール 300 円。2 食付 7,020 円。



15:40 浄源坊のウバメガシ



15:41 57 番・浄源坊



16:12 65 番・光明庵



16:15 65 番・光明庵の一髪観音



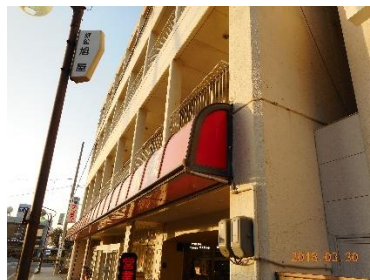
16:23 53 番・本覚寺の大師堂(中央)と本堂(左に一部)



16:36 53 番・本覚寺の山門



17:18 小豆島霊場総本院



17:46 旭屋旅館

3 月 31 日(土) 快晴・歩約 13km

朝食後、旭屋旅館の車で 66 番・等空庵へ送ってもらった。8:00、68 番・松林寺参拝。山道を歩き、8:20 に 67 番・瑞雲堂着。海沿いの車道に下った後、9:08、69 番・瑠璃堂参拝。さらに海沿いを進んだ後、山道の車道に入り、70 番・長勝寺を参拝。明和 4 年(1767 年)の銘が刻まれており、内務省社寺局囑託で慶応義塾大学教授だった柴田常恵の見解で神宮寺の鐘であるという理由により、太平洋戦争下での鐘供出を免れている銅鐘がある 71 番・滝ノ宮堂を 12:30、参拝。



7:49 66 番・等空庵



8:01 68 番・松林寺の鐘楼



8:02 68 番・松林寺の山門



8:03 68 番・松林寺の本堂



8:09 68 番・松林寺の大師堂



8:24 67 番・瑞雲堂



8:42 小江漁港が見える光景



9:08 69 番・瑠璃堂



9:52 菜の花も咲き競う



10:12 70 番・長勝寺の鐘楼門と本堂



10:44 緑が写った池



12:32 71 番・滝ノ宮堂、右は鐘楼



12:33 滝ノ宮堂の鐘楼の前にて

次いで車道を離れ、遍路山道となり石・岩がゴロゴロし始め、石仏や地藏などがあり、修験道の表示。遍路道の矢印に従ってきたが、どうも変だと地図を見ると、72番の奥の院・笠ヶ瀧徒歩巡拝で初めての方は車巡拝路をお参り下さいと書いてある。いまさら車道に引き返すと随分と遠回りになる。地図からすると、奥の院はそれほど先でない。約7kgのリュックサックを背負い、靴はマラソンシューズで岩場。

一歩足を踏み外すと、あの世行きだ。写真を撮る余裕もなく、へばり付くようになりながら進み、奥の院が見えたときは、気が抜けて一休み。13:40、72番の奥の院・笠ヶ瀧の鐘楼。奥の院への直前もゴツゴツの岩を手すりにつかまって登る。岩山に開いた穴を通り、本尊に到達し参拝。やはり岩がゴツゴツの所を手すりにつかまり下りると、使用せずに飾りとして掛けてある黄金に輝く梵鐘に至った。直ぐ近くに奥の院の山門と鐘楼がある。こちら側が奥の院の正門で、車道で参拝する場合には、ここからとのこと。筆者が通った行者修行道は裏道で、この奥の院が小豆島霊場中、最難関の地とのこと。そのとき、奥の院の本尊で話した72番・滝湖寺の住職がついでの便だからと72番まで車に乗せてくれた。車道を歩き、73番・救世堂、75番・大聖寺、76番の奥の院・三暎庵、77番・歓喜寺を参拝。さらに山道を通り、76番・金剛寺に参った後、バスの通る県道263号に下り、尾形崎バス停で大部港の先の小部にあるかつや旅館の迎車を受けた。トイレは和式しか無くて、ビールもない。体重55kg。2食付7,344円。



13:18 山道に石仏



13:20 石・岩の山道



13:41 72番の奥の院鐘楼



13:47 72番の奥の院直前の岩場



13:53 72番滝湖寺の奥の院・笠ヶ瀧



13:54 岩山に開いた奥の院本尊に通じる穴



14:03 72番の奥の院の本尊



14:30 72番の奥の院の黄金の梵鐘



14:37 72 番の奥の院・笠ヶ瀧の山門



14:40 72 番の奥の院の鐘楼



14:41 72 番の滝湖寺/山奥に小さく奥の院



14:56 72 番の奥の院・笠ヶ瀧を望む(中央上方)



15:04 73 番・救世堂



15:51 75 番・大聖寺、遠方にしあわせ観音像



15:52 75 番・大聖寺の鐘楼(左)と本堂(右)



16:29 76 番の奥の院・三暁庵



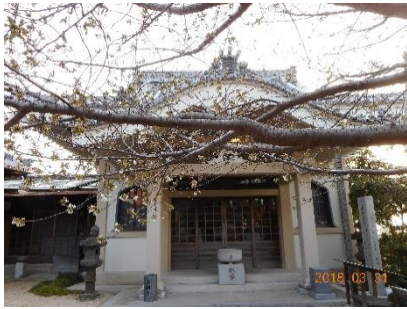
16:40 快晴下の夕刻せまる海を望む



16:57 77 番・歓喜寺の本堂



17:18 76 番・金剛寺の鐘楼門



17:26 76 番・金剛寺の大師堂



17:38 夕陽が沈む

4月1日(日) 午前曇、午後晴・歩約11km

朝食後、かつや旅館の車で番外の藤原寺の下まで送ってもらった。海岸沿いの県道26号を歩き、山に少し入って78番・雲胡庵を参拝。しかし、番外の藤原寺と78番・雲胡庵の映像がない。操作ミスをして消してしまった。県道26号に出て、79番・薬師庵、80番・観音寺を参拝。海岸沿いからの風景を楽しんだ後、昨日宿泊したかつや旅館の近くから山に入る。ウーン、またも猪侵入防止柵に出くわした。面倒と柵を開閉して進む。13:40、断崖絶壁に建てられた81番・恵門の滝着。ここで、所要のため81番に車で来ていた80番・観音寺の人が住職に筆者を送るように言われたとのことで、車で送ってくれることになった。まだ、今日宿泊計画のリゾートホテル小豆島アクアに予約していなかったので、電話予約。かなりの距離を車に乗せてもらったので、ゆっくり休養できると思いながら、ホテルに着くと、予約を受けていない。ここはリゾートホテルなので、3日以前でないと言われ受け付けないとのこと。確かに今日予約したがと確認すると、間違えて、最初に宿泊したベイリゾートホテル小豆島の電話番号をリゾートホテルのところに書いていた。近くに宿泊できる所がない。素泊まりなら、予約なしで可能とのこと。昼食用のパンなどを持っているので、夕・朝食ともパンなどにして、素泊り10,600円。素泊りにしては随分と高いが仕方ない。部屋、浴槽など立派。自販機の缶ビールと魚ソーゼージ、チーズ、パン、チョコレート、それに数日前からよく堂・庵に接待としてたくさん置いてあった八朔で一人乾杯。



10:16 79 番・薬師庵の山門



10:19 79 番・薬師庵の本堂



10:19 79 番・薬師庵の大師堂



11:06 80 番・観音寺の山門



11:10 80 番・観音寺の本堂



11:11 80 番・観音寺の観音座像



12:21 山道から小部辺りを望む



13:06 猪侵入防止柵



13:41 81 番・恵門の滝



13:50 81 番・恵門の滝の本尊



15:35 リゾートホテル小豆島アクア



16:22 山桜が所々に咲いている

4月2日(月) 午前薄曇、午後晴・歩約13km

朝パン食後、7:10 出発。川沿いに上り、7:30、82 番・吉田庵。山道を上って峠を越すと 83 番・福田庵。さらに、遍路道を進んで 10:05 に同じ敷地内にある 84 番・雲海寺と 85 番・本地堂に着。国道 436 号線に下り、10:40、島内に食堂はほとんどなくて、時間が少し早いですが福田港にある松月食堂で初めてパンなど以外の昼食となる親子丼を食べた。毎日続いたパン食と違い、美味しい。



7:34 82 番・吉田庵



7:41 吉田ダム



8:17 ツツジも咲く山道



8:31 遍路道表示(中央)



9:28 83 番・福田庵



10:06 84 番・雲海寺と 85 番・本地堂の山門



10:09 84 番・雲海寺の鐘楼



10:12 84 番・雲海寺本堂(右)と 85 番・本地堂(左)



10:23 84 番と 85 番の門前



10:24 振り返り仰ぎ見る筆者

ほぼ海岸沿いの国道 436 号線をひたすら歩くが、採石場などが目を楽しませてくれる。採石は墓石や灯籠などになる花崗岩で、昔から小豆島の特産品の一つとなっている。13:40、86 番・当浜庵着。少し山に入った国道 436 号をさらに歩き、大坂城石垣石切丁場の八人の石工が一度に犠牲になったと言われ、大きなノミの跡が整然と刻まれた八人石丁場や天狗岩丁場などを見て、15:10 に 87 番・海庭庵参拝。海向こうの山に山桜が咲いている。通りがかりの人の話では、今年は山桜が咲いているうちに、ソメイヨシノが満開となった。小豆島でこのようなことは記憶にない、聞いたこともないとのこと。これも地球温暖化の影響か。16:15 遂に、小豆島八十八か所霊場中で最終となる 88 番・楠霊庵。海を見ながら、この 9 日間の困難と喜び・感動が頭に走馬灯のようによぎる中、最後の読経と納札をした。楠霊庵で、今日予約したひろきや旅館の迎車を受けた。旅館に着くと、女将さんが 1 週間前の宿泊者と覚えていた。宿泊者の中に歩き遍路の人が一人。これまで出会った人達は巡拝専用バスなど全て車遍路で、歩きの人は初めてである。また、管笠(すげかさ)をかぶった人を見たことがない。車だと陽が射さないのだからだろう。マメによる足の痛みが和らいだ。昨日、今日と歩いた距離が短かったためだろう。入浴、体重 56kg。夕食に大ピンビールしかなく、飲んだ。ビール代含まず、2 食付 7,236 円。



12:14 絶景



13:09 採石場



13:23 ずっと雨風がなく、散らない満開の桜



13:32 86 番・当浜庵の本尊



13:46 86 番・当浜庵



14:09 ヨットとモーターボート



14:24 大坂城石垣石切丁場跡の表示



14:36 ノミの跡が列をなす八人石丁場



14:50 石彫のまち



15:12 87 番・海庭庵



15:31 山桜の花が見える



15:41 山桜の花がポツポツと見える



16:18 88 番・楠霊庵(なんれいあん)



16:23 88 番・楠霊庵の筆者



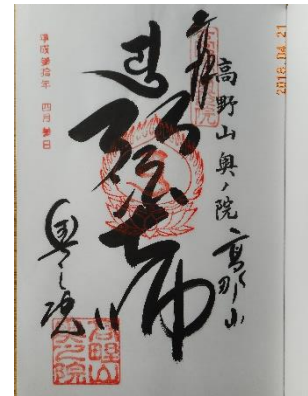
高野山は弘仁 7 年（816 年）に弘法大師空海が嵯峨天皇に上奏して、この地を賜り、諸堂の建設に着手し、一山を金剛峯寺と号したのが始まりで、現在、世界遺産となっている。高野山駅前からバスに乗り、奥の院口下車。杉や桧が茂り、20 万基を超えるという墓や供養塔が並ぶ参道を歩いて、奥ノ院御供所へ。四国遍路納経帳と小豆島遍路納経帳に高野山奥ノ院の本尊・寺号の墨書と朱印を頂いた。大師の入定留身の地である御廟に手を合わせた後、引き返す。大名などの墓や碑などが延々と続くが、最後にはまだ新しい土木建築殉職者の墓やロケットの碑まであり、時の流れを実感。これから帰ると自宅に着くのは夜中になる。以前の高野山参りは奥の院をかいま見ただけだったので、この際時間をかけて巡って見ることとし、宿坊協会の中の橋案内所で、宿坊のある 49 寺院中、蓮華定院の宿坊を予約してもらった。宿坊は外国人、特に欧米の人がほとんどであった。本堂での講話も英語だった。30 分の講話・座禅の後、夕食は精進料理。少量で、ビールなどはご法度とのこと。この量では、あの大きな欧米の人には到底足りないが。特筆すべきは筆者と 2 名の日本人が別途に、真田幸村で有名な江戸時代の真田家が墓参のとき、寝食をしていた続き 2 部屋で食事をしたことである。真田の殿様になった気分を食事し、写真を撮影。2 食付 12,360 円。あの精進料理、古い部屋・風呂・トイレなどの設備で何と高いこと。欧米の人にとって、高野山の宿坊は高くても、和食の味、講話と座禅など癒しの場として人気なのだろう。



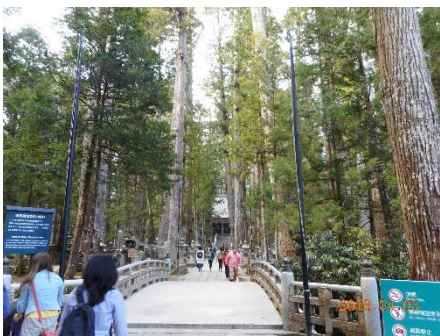
14:59 高野山奥の院へ



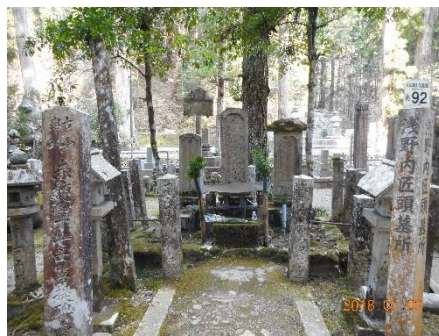
15:06 奥の院御供所



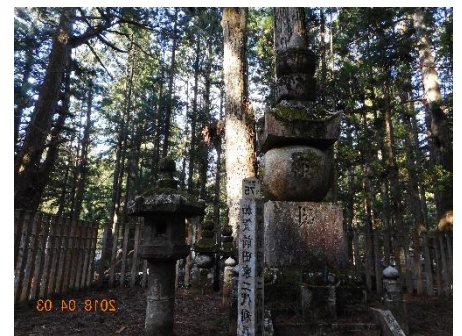
高野山奥の院の墨書・朱印



15:19 奥の院御廊橋/ここから奥は撮影禁止



15:40 浅野内匠頭墓所、赤穂四十七士の菩提碑



15:43 加賀前田家二代利長の墓



15:51 土木建築殉職者の墓



16:31 蓮華定院の山門と本堂(奥)



16:31 蓮華定院の大師堂と宿坊(右)



18:20 真田家が寝食した2部屋



18:25 真田家が寝食した部屋で食事



18:26 真田家の赤備の鎧・兜の前で威張る筆者

4月4日(水) 薄曇

朝食も極少量の精進料理。一千年余りの間、女人禁制であった高野山への入口に何軒もあった女人堂。そのうち、唯一現存する女人堂へ。女性はここから山内に入ることを許されず。子を想う大師の母堂・玉寄御前も大師生誕の地である香川県・讃岐の国から来てここで、大師との面会を待ったという。3代将軍家光が建てた家康、秀忠の霊屋のある徳川家霊台。高野山真言宗の総本山で、全国3,600におよぶ末寺の宗務を執っている金剛峯寺。ここには太閤秀吉によって切腹させられた秀吉の実弟で前関白秀次の柳の間がある。さらに、日本最大の2,340m²の石庭があり、京都の白砂が使われた雲海中で、奥殿を守っていると表現された四国の青い花崗岩14個が使われた龍から成る蟠龍庭がある。次に、高野山真言宗の布教・御詠歌・宗教舞踏の総本部で、各種研修会や講習会が開催されている大師教会を見学した。北条政子が夫の源頼朝の菩提寺として創建した国宝・金剛三昧院多宝塔。壇上伽藍にあり、建久9年(1198年)に行勝上人が建立した鎌倉時代の書院造り様式の国宝・不動堂、さらに、真言宗の根本道場として816年から70年位を要し、弘法大師と真然僧正の二代で完成した真言宗の根本大塔(現在の大塔は昭和12年の再建)や、平安時代から一山の総本堂としての役割をはたしてきた金堂(現在の金堂は昭和7年の再建)を参拝。また、霊宝館には高野山の国宝、重要文化財などの指定文化財約28,000点や50,000点もの絵画・彫刻・工芸品・書跡などが収蔵されているといい、見学した。ただし、全て写真撮影禁止。

千手院橋からバスに乗り高野山駅前、来た経路を引き返し新大阪駅へ。自宅着21:00。



8:02 女人堂



8:25 徳川家霊台



9:04 金剛峯寺



9:14 秀次自刃の柳の間



9:24 金剛峰寺の蟠龍庭



9:50 大師教会



10:23 金剛三昧院多宝塔



10:29 壇上加藍の不動堂



10:33 壇上加藍の根本大塔



10:38 壇上加藍の金堂



11:03 加藍を結界する中門



11:25 靈宝館

2年半前に51日間で全行程を完全に歩いた約1,200km 四国霊場巡拝の通し打ちと比べ、今回の9日間での約150km小豆島霊場通し打ちはやはり体力の衰えを感じさせられた。単純に計算すると1日あたり、四国巡拝では平均約24km歩き、小豆島霊場では平均約17kmしか歩いていない。しかし、遍路の意義に疑念を生じることもなく、今年元旦の救急車搬送の不安を解消することとなった。小豆島は島とは言え、最高峰817mの星ヶ城山など山あり、谷ありで困難も多かったが、道中、島の人達に支えられての満願であった。

現在74歳、後何年か残りの人生、悔いのない有意義な生活を過ごしたいものである。